角に打ったら硬いで。

ちょっと

出てしもたら、

ん!やめくされ!」って言いお

木箱の思い出

屋市

安藤直彦

## 不認なの気が高いの理

◇話し手 森本章さん 昭和11年七月生まれ 上勝町傍示生まれ傍示在住 83 才

x 間も書き。 みかん箱を一日二百個以上作ったよ

▼朝から晩まで釘打つばっかり 昔は傍示に選果場があって ほこでみかんの箱を作った

傷とか腐りがないか選別して、 場が三つあったんよ。福川選果 箱詰めして出荷しよったんよ めてきて、大きさを選果して、 高鉾農協(※1)には、選果 果場っちゅうのはみかんを集 藤川選果場、 二年足らずやな。 傍示選果場

昭和三〇年に高校卒でね。そ

里 文 Ш 15 専属でやりよった。 の量が多かったけんな、他の人 ろいろ教えてくれたんよ。鶴居 覚え」って呼んでくれてな。い さんはずうっと前から、藤川で ら、お前若いんじゃけん、来て もおったはずじゃ。傍示は私が が「専任の箱作る人は忙しいか の年から、鶴居商店のお父さん しよったかなあ。藤川はみかん

**個とかな。間に合わさないかん** ちゅうて注文があるんよ。ま ンセキ。高さは覚えてないな ンセキ。半分の大きさの箱がハ くらいから行って、夕方暗あな ので、私や最初のうちは五時半 わってくるけんどな。数は四百 なあ。明日ハンセキがなんぼい あ。選果場ごとに箱を受け持っ 斗缶が二つ入る大きさの箱がホ みかんの箱っちゅうのは、一 ホンセキがなんぼいる、 日に日に行きよったら、伝 三日にいっぺんくらいか

みかんの箱

強いけんな、積みあがったまま こに作ったやつを積み上げてお 選果場の片隅でやりよった。ほ るまでやったんじゃ。箱作りは かんを詰めたりするんは、女性 トから持っていきよったよ。み くんな。取る時は、昔の人は力

で釘打つばっかりじゃ。手も叩 んたん、たんたん。朝から晩ま な。ホンセキは、ほんだけはと **なあ。二五○ぐらいできたんか** ンセキが一日に二百ちょっとや 先にだいぶ作っとかな間に合わ たな。それいるぞ、ったってな、 てもできんけんどな。黙々とひ とりでたんたん、たんたん、 んでな。一生懸命やっても、

藁縄でくくって、それを選果場 は一センチ五ミリぐらいやった 板をカットして、何枚も重ねて えてくれてあって、板材は傍示 いけん、わかりません。 ったように思う。測ったことな かなあ。ホンセキのほうが厚か は端材を利用しよったな。 厚さ に収めてくれよったんじゃ。 にあった井岡製材へ注文して 上下のぶんと三種類。製材所が 釘とか板は選果場が全部そろ 箱板の大きさは、 前と横と

板どうしは離れてるだけで、き ときは三カ所くらい打ったな。 めるようになっとるんよ。継ぐ 片っぽを研いで、釘状に差し込 ちゅうんは、 はそのままやけど、横の短い板 **ちんと合うように、製材で切っ** ったんよ。一枚板はなかったな。 るけど、二枚や三枚の場合があ いなんを、小っちゃあにして、 てくれたあるわけよ。前と上下 箱板は四角にはしてくれたあ 波釘で継ぎよった。波釘っ トタンの波板みた

いたり、大変じゃ。ははははは。 箱は九月ぐらいから作り始め

◆波釘で板を継いでから箱作り

が多かったんちゃうかな。スギの木もあったけんど、マツ

木の繊維がまっすぐやけん、 だら、釘の止め方によって、

から箱に進む。

箱作り 後に底を打って、 ほなけんな、きちんと打たなん

前と横の板を打っ て、L字型のパー

ツを大量に作り、 それを合わせて箱

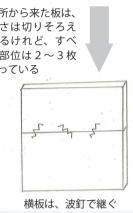
最後に底板を打

枠にする

気持ちで打てということ。 外へ 運ぶとき怪我する。みかんは怪 釘は出すな」ちゅうて教えてく 我してもかんまんと。はははは ったら、たまえて(持ち上げて) を打つとき箱が歪むんよな。そ んだときには、中へ出すような ではないんよ。きちんと打てな は。「出して打て」ということ れた。というのは、外へ出しと じても釘は中へ出しとけ、外へ こが技術なんよな。 先輩(鶴居さん)は「打ち損

です。ははははは。ほれをしてやすい。これは技術じゃ。秘密 斜めに打ったほうが楽で、 原田寿賀子 打ち じゃ。 の。ほいたらまた手間かかるんいて打ちかえなんだらいかん った時にわかる。あいたーと思 じゃ。数せないかんのに、抜い てまた打たないかん。ほれは打

もんもあったな。節のところで きれいに波釘で継げんような



製材所から来た板は、 大きさは切りそろえ ているけれど、すべ ての部位は2~3枚になっている

きるように合わして打って、 とに二つ打つの。ほんで枠がで ずーっと作って重ねていくわ の最初は前板と横板を丸釘で打 け。釘は板がきれぎれだったら ったもの (上字にしたもの) を、 本では心配。狭あても一枚ご かるな。 寒いけん、 てはじめて、これ、あかんとわ 割れてしまってな。それは打っ こして、 もしゃあないんで、焚きもんに しよったんちゃうん。 割れてしもたらどうに あたりもって(あた 斗缶を切って火をお 選果場、

釘は外してる間が 日の分ちゅうて、 じゃ。とにかく作 よったように思う。 りながら)仕事し 半分に打ったやつ に電気点けて、 ん。ほなけん、 らないかんのやけ ないで。そのまま

つ。釘は横板の 部分のみ打つ 生懸命じゃわ。間に合わさな をずー 次の朝行って…。 たわだな。ほんで げといた時もあっ っと積み上

大体終わり いかんでな。

で5、6人はおったかな。 今は タッと貼るかする。洗ビンだけ ってある紙を剥がすか、

一人で最高七千

たよ。 かったんよ。ところが、 円から二三〇円くらいかな。 に五一〇〇円じゃ。 よ。月給なんぼと思うで? 三二年の四月に役場へ入ったん 一円じゃわ。二百個作って四百 ハンセキがひと箱仕上げて 農家の日雇いが一日一八〇 びっくりし 昭和

箱は全部釘を抜 てきたんな!とろくそ、 がなあ、気短の怒り屋でなあ。 日目から「なんで役場へ入っ ほしてまたなあ、仕事の上司

接置いてあったりするから底が

明日辞めようか、今日から辞め たもん。足らんでえだ。お酒も 就職してから、 な格好して、こっから聞いて、 ら慣れてしもうてな。「はいは ったら、また怒るんよ。 ようになるの。ほんでまたしよ ようか」ったら、なんや言わん って、「はいはい、辞めますよ。 円ではもたんわよ。役場入って な。ほうせなんだら、五一 こっちから抜けるようにして はいはい」って答えたよう 親に小遣いもろ

たまには欲しいし、煙草も欲し いしなあ。 箱打ちしてたほうが

うもん。要領得てきたら、最初 からちょっと中向けて打つわけ 得だったな。ははははは。

ビン詰めの自動 日本酒の木箱



◇話し手 村井由仁 役 造合資会社(設楽町)に入社 昭和44年愛知県北設楽郡設楽 口高等学校を卒業して関谷醸 現在関谷醸造株式会社 町津具生まれ。地元の県立田 製造部長

収してきた瓶を洗って午後から

20年後くらいにキュウリの生

田原の花市場に出荷した。やが 口箱に35本ずつ入れて沼津や小

て市場から苦情がきた。トロ箱

ックの播種箱を使っており、

今では野菜の播種もプラスチ

が大量にある所で集めた。4月 田の大きな干物屋など、トロ箱 きたが、苗つくりが始まると下 魚屋さんなどで集めることがで

になると苗の出荷が始まり、

箱もあまり出なくなったよう が少なくなったのか不要なトロ てから干物屋さんもお歳暮需要

最盛期には10万本を超える

ビン詰め作業は、

午前中は回

海岸沿 岡大兴

木箱とビンは使い回す

升瓶が多くて木箱ばっかり使 うこともなかった。 で、木箱を自社で作ることも買 回収してきた箱を使い回すもの っていた。木箱は空瓶を入れて ン詰めをやった。その時分は一 昭和63年に入社して最初はビ

か分からんもんで、よそのメー

もそうやっていた。先に貼

貼らないとどこのメーカー

莱泉」って書いた赤い紙を貼 がいて、さらに箱の横の板に『蓬 る。空いた木箱を整形し直す人 こから洗ビン機のラインに並べ っておるもんで、栓を取ってそ ビンは木箱に入って栓がかぶさ 千五百本くらい詰めていた。 酒を詰める。その頃は一日に

◆役場の給料はびっくりしたよ ころは野ざらしで、土の上に直 酒屋さんが空瓶を置いてあると ちにどんどん古くなっていく。 を使い回すので、何回も使うう いがいうちの会社から出たもの ど、郡内で出回っているのはた が来ればしっかりしているけ のメーカーさんが投入したもの ものが使える。木箱は灘の大手 も木箱も比較的きれいで安全な 自分の所で回収してくれば、瓶 収してきたビンを使っていた。 そう使わなくて、ほとんどが回 お酒を詰める瓶も新瓶はそう

家には食卓も勉強机も本棚もあ

った記憶があります。

戦;;

災で一物もなくなった我が

積むとずっしりと重くて大変だ

小回知で漁売り

りませんでした。稼ぎの少ない

駄菓子屋では家具を買う余裕も

なく、

家族四人(母と子供三

ちの勉強机、本棚など、日曜大

**八、父は戦死)の食卓、子供た** 

あった農協協同組合

化とともに消えた くれるのですが、品切れになる と取りに行くのは私の仕事でし かんはそのまま詰めてありまし 材として籾殻が詰めてあり、 記憶しています。リンゴは緩衝 に入っていました。リンゴ箱 もやっていました。 り、冬から春にかけては果物屋 屋と言っても夏はかき氷を売 た。自転車の荷台にみかん箱を た。普通は問屋さんが配達して 子屋をやっていました。駄菓子 3年まで我が家は焼け跡で駄菓 の必須知るがはめ、 当時、リンゴもみかんも木箱 みかんは15㎏詰だったと 1948年から195

りま

した。ただ、机の脚などの

和を再利用して手作りで作 できる家具はリンゴ箱、み

に。と言っても、材木屋を は近くの材木屋さんで買い

が合併しており、当時、高鉾村に ■※1 上勝町は高鉾村と福原村

> そっと立てかけてある手ごろな 物色して太い柱材などの間にこ

半端材を見つけ、店主に「おじ

作りました。余ったリンゴ箱は

ンゴ箱再利用の家具をいくつか 言ってくれました。こうしてリ はタダでやるから持っていけと さんこれいくら」というと大抵

リンゴ箱をバラした板を、机の天板と、天板を です。 炭などを入れる箱にしたり、ご

支える升状の板に使っている。長さ方向はリンゴ箱の長さだが、幅方向は 何枚か継ぎ足す。

三段くらいに積んで天秤棒の両 仕入れて木製のトロ箱に入れ、 り、行商人が港に上がった魚を その頃下之一色には魚市場があ 扉がなく、吹きさらしでした。 で走っている京都市電のような 呼ばれた4輪の電車(今明治村 ていた電車道に面していまし のちかくで、当時、市電の走っ 形)がおもでこれには**運転台**に た。当時の市電は、「単車」と 私の家は今の久屋大通りの駅 戦前の話です。

で薪としてかまどにくべたりも した。当時は薪も貴重だったの 近所で欲しい人にあげたりしま していました。懐かしい思い出

> 通り庭の土間に広げて、「奥さ 先につくと積み上げたトロ箱を

ん今日はカレイのいいのが入り

りをします。得意先は決まって

いて毎日同じ人がきます。得意

目的の停留所で降りて得意先回 トロ箱を後部の車掌台に積んで

端にかけ、担いでやってきます 開きます。トロ箱の蓋を裏返す ですぐ火にかけていました。 さばいて切り身にしてくれま ました」などと言って「店」を には出刃包丁などが入っていま とまな板がわりになり、上の段 した。品物が決まると手際よく このトロ箱は使い捨てではな 当時は冷蔵庫がなかったの

った古き良き時代の思い出で た。使い捨てという言葉もなか り減って年季が入っていまし 何年も使い古して外側はす

既会に必需品だったトロ第 に次々に播くたびにトロ箱の板 も同時に苗を作った。それだけ

吉田謹治

の上部に「赤大玉スイカ」や「桃

きた。

太郎トマト」と種類が混同しな

は購入していた。暮れになると

トロ箱は干物屋さんから最初

干物のお歳暮需要で大量のトロ

伊藤直子

業をスタートするときからのも こトロ箱とのかかわりは農 ての体力のあまりない私には天 秤棒が肩に食い込み重労働だっ

> トロ箱は移植まで、接木までの いように細マジックで書いた。

箱が出て、処分に困るので取り

冉々度と使われ、最後は干して

取りにいった。1回に200箱

は2トントラックで3回くらい に来てくれということで12月に

~20日くらいの役割で再度、

さ

私

地

砂を使った栽培でキュウリやト のである。 **両市のキュウリ専業農家に** 近くに立地しているので海 子のある所だ。もともと、 四寄りの大谷という所で静 込んで研修した。久能海岸 ル園芸高校を卒業後、 エダマメ、ショウガなど 年当時)で購入したトロ箱であ を流れる青野川の中流域の川砂 めると、播種する用土は南伊豆 り就農した。キュウリ栽培を始 くの魚屋で30円くらい(昭和46 を採取して使った。播き箱は近 農家研修1年後に南伊豆に戻

> の当たらない所にしまった。 おいて乾いたところで倉庫や雨

最初のころ、トロ箱は近くの

には置き切れず、ハウスの中に くらい積んできて我が家の倉庫

トレーを出荷に使うようになっ も置いた。数年後プラスチック から正 住みば

にして 底に動 をミカン箱に入れ、それを2人 ワラ して天秤棒でかついで道まで上 のものではなく、堤防下の海砂 た。海砂は海岸近くの砂地の畑 にはワラではなくもみ殻を使っ 車に積み込んだ。高校出た で押し切りで細かく刻んで ュウリの播種は、トロ箱に **し播いた。もみ殻のある時** 敖いて、海砂を乗せて平ら 苗を出荷した。播種する種子 るという方向に変わっていっ 産農家から野菜苗を生産出荷す の苗(接木していない物)30種 スイカ11種類。接木トマト8種 木ナスなど。これに加えて自 類。接木キュウリやメロン、接 トロ箱の数も必要だった。接木 の量も桁違いに多く、それだけ

やるの。 打ち付けて使っておったのは覚 んが とか、 詰めている。 なのは下をはぐって新しい板を やつは全部捨ててくれ」って言 してきれいな木を打ち直したり いながら、その中でも使えそう やつがある。そうすると木を外 か、あと木が割れとったりする るんで釘がゆるんどったりと 木箱は使ったものが返って来 底が腐って危ないような それをビン詰めしながら 箱を直す担当の後藤さ が広いもんで二 は重いけど、幅

「木箱」 (1.8ℓびん×10本入り) えている。 なっていたけど、五合瓶以下は 一升瓶は機械で詰めるように

せる人、検ビンする人なんか 詰める時はラインにビンを乗 で4、5人でやった。酒が詰ま かりで10本の木箱にビンを入れ トに乗せるのも人力で、二人が った製品を木箱に入れてパレッ **手作業で詰めていた。一升瓶を** 段積む。昔から女の人も結構お だけど、人がおらん時はパレッ を入れたり検ビンをしてもらう ったよ。女の人はなるべくビン ース並べて互い違いに組んで3 パレットも木製で、 トに積む作業もやった。「重い

みができ、積み重ねることがで

一段に6ケ

ど、女の人は2段は積めても3

よう」って言って提げていたけ

段は無理だった。

にクッと爪を刺して簡単に持ち

入社して何年かしたら木の箱

れたから、作業の人工は変わら 上がって積むっていう機械を入 翌年からプラスチックのトレー えてほしいと強い要請があり、 ばるトロ箱は処理に困るので変 ら苗の販売が終わった後、かさ なったという。また花屋さんか の底が抜けて苗が落ちてダメに

場から消えていった。

が、やがて我が家の農業生産の

必需品だったトロ箱だった

かり使わなくなった。

の場所を取らず、トロ箱もすっ ちらは積み重ねがきくので倉庫

に切り替えた。こちらは組み込

ると30キロくら 箱は酒が10本入 いあって一人で ットに積む。木

ようになった。 んけど重たいものを軽く運べる

酒の積み方 番でビン詰めを手伝っていった でもやった。ビン詰めにも精米 の人が来たり、営業の人も朝 かったから、みんなどんな仕事 あの頃は働いている人も少な

に積みにくい

人がかりだと逆

問屋の倉庫は5段積み